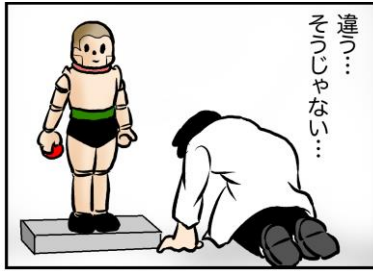


シャカもん 誕生篇 02



今年にはコロナウイルスの影響で祇園祭の山鉾巡行や神輿洗式などの神事が取りやめになりました。

京都では夏になると普通のスーパーでも店内BGMが有線放送から「コンチキチン」という祇園囃子に変わるほど日常に溶け込んでいるので非常に残念です。

お寺の人間が神社の話するのに違和感を持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが

以前の仏教語絵巻「祇園」でも書いたように、祇園祭の祭礼を行う八坂神社は明治時代の廃仏毀釈令までは「祇園社」と呼ばれる神仏習合の場でもありました。

当寺の京都市副市長が国の号令の域を逸脱する程の強力な力を持って策を推し進め、多くの寺や仏像・文化財が破壊されたり散逸したと言います。

翻って現代に目を移すと、国際社会でも「分断」が大きなキーワードになっており、国・人種・性・貧富などによって人を分け、

シャカもん異聞



2020年
7月1日
002号

紫雲山大泉寺発行

祇園祭が別名「鱧祭り」と呼ばれるほど、かつて鱧は海の無い京都で暑い夏を乗り切る為には欠かせないタンパク源でした。近所のスーパーでも手に入り、天ぷら・お吸い物・かば焼き等多くの調理方法がありますが、湯引きした鱧を梅肉で食べるのが一番好みます。



互いの違いを受け入れず争う場面が増えてきています。

仏教には「無分別智（むぶんべつち）」という言葉があります。相対的な認識に捉われない真実の知恵という意味で、これは言語表現を超えた境地と言われています。

物事に相対した時、一呼吸おいて見た目や世間での価値に捉われず、表層の下にある本質的な物に思いを至らせ、対立点よりも共通点を探してみてはいかがでしょうか。合掌。